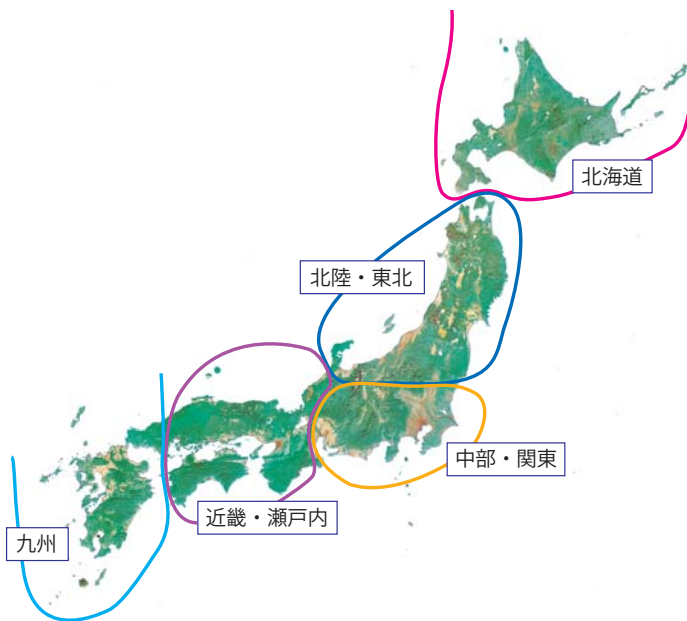


# IV-9

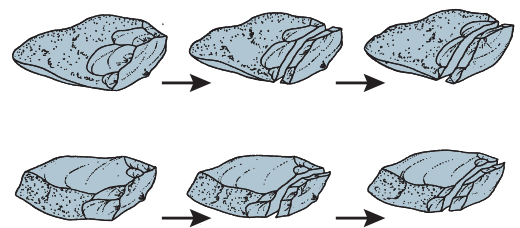
## 岩宿（旧石器）時代の日本をみてみよう

岩宿（旧石器）時代の日本列島には、北海道から沖縄（人類化石のみ発見）まで遺跡があり、全国で3000～1万人が暮らしていたと考えられています。古い時期に刃先を磨いた石斧が全国で見られるなど、大陸と異なる共通した文化をもっていました。そこには地域色もあり、時期によって変化していたことが、発見された石器の特徴から考えられています。今から約3万5千年前から2万4千年前ころまでは、関東地方をさかいにして、日本列島南部と北部で多少異なる文化がありましたが、大きな変化はありませんでした。ところが約2万4千年前以降になると、九州地方、近畿・瀬戸内地方、中部・関東地方、北陸・東北地方、北海道地方というように、石器やその作り方に地域の特色があることがわかっています。最後の時期は、細石器文化の時期で、日本に北海道からそして九州からというように2つの方向から新たな文化が日本列島に入ってきました。



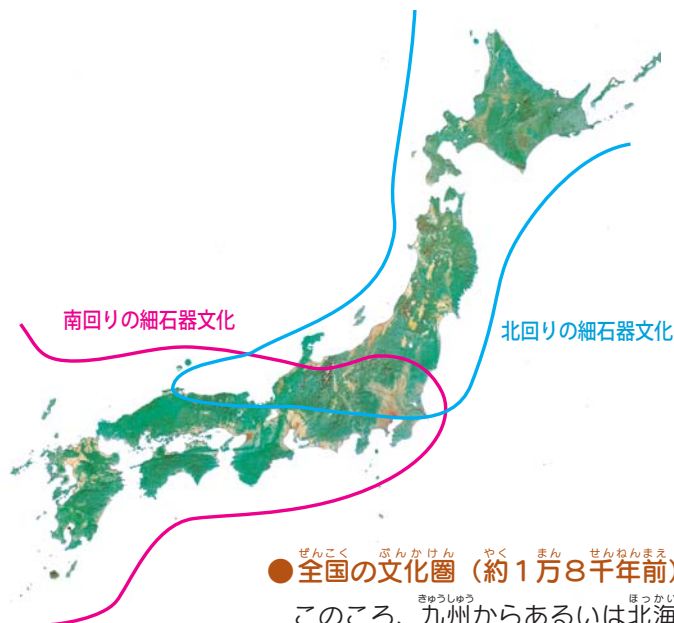
### ● 全国の文化圏（約2万年前）

約2万数千年前には、全国が5地域ぐらに分かれ、日本列島内の地域の違いがはっきりするようになる。特に、近畿・瀬戸内地方では、「瀬戸内技法」とばれる特殊な石器の作り方が発達した。



### ● 瀬戸内技法

（松藤 1974）  
近畿・瀬戸内地方で発達した石器作りの方法。サヌカイトを使うことが多い。



### ● 全国の文化圏（約1万8千年前）

このころ、九州からあるいは北海道から細石器文化が入ってきた。